



みんなが参加し
みんなが平等に暮らせる
よりよい社会づくりを

昭和56年（1981年） 国際障害者年

〈テーマ〉完全参加と平等

シンボルマーク………2人の人間が連帯して
とり合い、平等・希望・支援を表しています。周
囲の業は、国連の紋章の一部です。

障害者というと、普通、私たち
は、目や耳の不自由の人とか車い
すの人とかといった身体に障害の
ある人を考えますが、国際障害者
年では、障害者をこういった人た
ちばかりでなく、知恵が遅れてい
るとか、精神に異常があるとかい
うような人たちをも含めて考え
ています。

この数字は平均寿命が延び、高

国際障害者年 によせて

今年には「国際障害者年」です。

これは五年前の国連総会で四十
一か国の共同提案で決定されたもの
で提案国には我が国も含まれていま
す。二年前の総会において「完全
参加と平等」というテーマが決定
されました。

過去における身体障害者福祉を
見るに最も大きな障害は一般社会
の無理解と偏見であるといわれて
おります。ここ二三年の間に心
身障害者に対する社会の対応には
めざましい改善のあとが見られた
といわれますが、しかし福祉に必

要な施設、家、人等看板はそろつ
たが中身はまだ劣っているといわ
れております。障害者が一市民と
しての完全な社会生活と平等の権
利を保証されなければそれは社会
健康で調和のとれた社会とはいえ
ないのではないかと思います。そ
ういう意味では国際障害者年と
テーマは障害者にとつてだけでなく
私達一人一人にとつても大きな
意義を持つていけるものと思われ
ます。障害者が健常者と同じような
生活が送れるようになるまでには
一般市民や地域社会また国や地方
自治体にもっと深い理解と協力が
必要とされます。この国際障害者
年に当っては国や地方自治体にお
いていろいろな記念事業等が予定
されているものと思われませんが、
これらも一年限りの行事に終らず
今後引き続いて施設の充実、日常
生活の援助、社会参加の促進、障
害発生防止対策など地道な施策の
拡大が一層必要かと思われま

達は身障者問題を私達自身の事と
して共同して社会生活を営むのが
当然であろうかと思われま

つきに最も重要であると思われ
るものに身障者の雇用の問題があ
ります。法定の身障者雇用率につ
いて見ますと民間企業が一、五％
特殊法人、現業官公庁が一、八％
とされているが現実には民間では
平均一、一％に過ぎず実に四八％
の企業が目標に達していないとさ
れております。未達成の企業は一
人当り月額三万円を納付義務金と
して納めています。納付義務金は社
会的責任は全う出来ないというむ
ずかしい問題をか、えております。
一日も早くこの改善が望まれるも
のであります。

最後に昨年二月に実施された厚
生省の身障者実態調査によればわ
が国の十八歳以上の在宅の身障者
は一九七万七千人で人口比は二、
三八％となつております。これは
十年前に比較すると実数で六十六
万人、人口比で〇・六％の増加と
なつています。つきに都留市の状
況をみてみますと一月現在におい
て身体障害者手帳所持者は五三〇
人、人口比は一・六四％となりま
す。これに精神薄弱児者を加えれ
ば尚相当数の増加が見込まれます。
当市においてもこの国際障害者
年の主旨にのっとり現在実施して
いる福祉のまちづくり推進事業の
中「障害者の住みよい町づくり事
業」の中に地域住民地域社会に対
する啓蒙並びに事業等を検討し事

福祉事業に寄贈

業を推進していきたいと思ひます。
皆様方のご理解、ご協力をお願
い申し上げます。

去る二月二十日都留ライオンズ
クラブ会長 君田久芳、社会福祉
委員長 依田康和、監事 森島芳
彦他三氏が市役所に高部市長を訪
ずれ本年度実施されている国際障
害者年にあたり同クラブにおける
記念事業の一環として身体障害者
福祉の関係事業に役立ててほしい
と障害者用車イス五台、ねたきり
の重度障害者またはねたきり老人用
ギャジベット二台、視覚障害者用
カナタイプライター二台及び朗読
奉仕用録音機一台（計八十万円）
の寄贈がありました。

市では、さっそくこの善意によ
る寄贈品の使用について検討し車
イス五台については市内四出張所
及びグリーンロッジにそれぞれ配備
することを予定しました。ギャジ
ベットについては福祉事務所にお
いて保管し希望者にお貸しする予
定です。また、カナタイプライタ
ーおよび朗読奉仕員用録音機につ
きましては市において現在実施し
ている「福祉のまちづくり推進事業」
中、障害者の住みよいまちづくり
事業の中において点訳奉仕員養成
研修会並びに朗読奉仕員養成研修
会事業で使用させていただきます。
ここに改めて皆様方の善意に対
し心より感謝申し上げます。